

～海鳴り遙かに～

上高だより

平成30年1月26日金曜日

第10号



長崎県立上五島高等学校
NAGASAKI PREFECTURAL KAMIGOTOU HIGH SCHOOL



「便利さは諸刃の剣」

校長 原 昌紀

ある教育雑誌に「ノートを取れない学生たち」と題した記事がありました。数年ぶりに教壇に立った大学教授が学生の変容に驚き、戸惑ったという内容で、具体的には「授業中、教壇に走り寄り、スマホをかざして板書された黒板の写真を撮影して席に戻る学生が何人もいること」や「ノートを取らない(取れない)学生が過半数を占めている」という実態が書かれていました。ノートを取ることは、相手の話を文字に置き換え、ポイントを把握し、全体的な構造をまとめながら書き留めていくもので、受け身でなく能動的に思考しないとできない行為です。企業などでは、上司に報告するために、会議の議事録や相手との商談内容をまとめるなど、ノートを取る機会は多々あります。この記事を読みながら、この学生たちの社会人としての将来を不安に感じた次第です。最近では、どの教科も教科書やプリント等がよくまとめられていて、学習の内容が一目でわかるものになっています。電子黒板やタブレットといったICT機器が発達し、積極的な活用が求められています。それは大変良いことで、大いに活用すべきですが、学ぶ者が便利さや効率を過剰に追究するあまり、自ら思考することが阻害されていないか、受け身の態度で授業に臨んでいないかなど、十分気をつけなければいけません。教える側も、便利なものは子どもたちの発達や成長を阻害する一因になる可能性があることを肝に銘じなければならないと思っています。

全国の調査によると、高校生の携帯・スマートフォン所有率は95%を超え、どの高校生も利用しているのが現状です。携帯・スマートフォンの登場で、確かに生活は便利になりました。災害時の緊急対応においても、携帯・スマートフォンのおかげで何人もの命が助かっています。一方で、これらに関わる若者の悲惨な事件が発生していることも事実です。

Windowsを開発し、マイクロソフト社を世界最大のコンピューターソフトメーカーへと成長させたビル・ゲイツ氏は、子どもたちには、「携帯を持つのは14歳になってから」と決めていました。14歳になって携帯を買った後も、寝る前の使用は制限させ、食事の時は一切禁止、自分自身も、食卓には持ち込まないと決めているそうです。また、現在のアップル社を設立し、iTunesや、iPhone、iPad等の製品を大ヒットさせた、故スティーブ・ジョブズ氏も、親としての彼は、ローテクを貫いており、子どもたちには電子機器を与えませんでした。ジョブズ自身もスクリーンタイム(画面を見つめる時間)よりも家族同士が顔を合わせ、会話する時間を優先したそうです。二人とも、SNS等の利用は、宿題や友達付き合いにおいての便利さを認めつつ、使い過ぎや使い方による悪影響も十分認識していたのです。

現在は、携帯・スマートフォンに限らず最新の機器が次々に誕生しており、あらためて人間の創造力のすごさを感じます。しかし、これらは、人間が安全、安心、快適に生活するために作り出された道具です。便利な道具は、時として人間の能力やモラルを奪うことがあります。道具に限らずあらゆる便利さは、諸刃の剣であることを決して忘れてはいけません。道具は、その性質を知ったうえで自分の目的にあわせて使うもので、道具に振り回され、使われるだけになって自分を見失わないようにすることが大切です。

各学年より

1学年(66回生)より

2017年12月24日(日)鯨賓館ホールにて「第五回 上五島地区高校生弁論大会」が開かれました。「この島の未来へ 君は何を想うか」というテーマの下、10名の弁士が弁論を行いました。本校からは5名の弁士が出場しました。どの弁士も皆、上五島に対する思いや、自身の将来の目標、町に対する提言など、弁士自身の熱い思いを自身の貴重な体験や具体的な案を交え、説得力のある弁論を行い、充実した会となりました。



2学年(65回生)より

自立までのタイムリミット1年3ヶ月。いよいよ3年0学期がスタートしました。一步一步確実に足場を固めながら自分の進路実現へ向けて進むには、この3ヶ月の自分の鍛え方・意識が非常に大切です。就職希望の生徒は後6ヶ月で自分の生計を立てる就職先を自分で選択し、後8ヶ月後には受験。進学希望の生徒は、後1年でセンター試験。「**できるだけ遠くまでいこう そこにつけば もっと遠くの景色が見えるはずだ**」モルガン財閥の創始者の言葉です。今の自分に満足したら成長は終わりです。挑戦があるから成長がある。成長するからその先の視野や選択肢が広がります。失敗しても自分の責任だと振り返り、そこから学べばいい。「失敗したらどうしよう」ではなく、「やり残したらどうしよう」という意識で、存分に挑戦し、1年3ヶ月後、65回生140名大きく羽ばたきましょう。**最後に、電気情報科2学年第一種電気工事士技能試験も全員合格!!素晴らしい!!**

3学年(64回生)より

「せごどん」見てますか。月曜日の準備に追われる日曜日の夜八時に、大河ドラマなど悠長に見る習慣のなかった我が家ですが、現時点で2/2回ともフルに視聴しております(視聴率100%)。というのも、わたくし、西郷隆盛と大久保利通が好きで、つまり「翔ぶが如く」の大ファンだったわけです。だから、鹿賀丈史さんが島津斉興を演じていることに感慨一入なのです。我が家の二人の小学生にも、時代状況の知識を学び、また物語の心情理解の力をつけてほしいとの思いから一緒に見てもらっています。さて、「3年生」が「卒業生」に変わるこの2月を前に彼らに考えてほしいこと。それは「自分の道は自分で切り開く」ということです。誰かに決めてもらうのではなく、自分の意志で・自分の情熱を傾けられるものを見つけてほしい。失敗や恥を恐れず進むためには、「自分で決めた道」でなければなりません。卒業後の道を「自分のもの」にしていく。そんな2・3月にしてほしいと思います。

企業見学会

電気情報科2年生は12月20日(水)に、工業科高校2年生を対象とした県内企業における職場見学会が実施されました。上五島にも営業所を構える協和機電工業株式会社の時津事業所と、同じく上五島にも営業所を構える株式会社九電工の長崎支店を訪問しました。協和機電工業では、工場に入り電機製造部門や保守部門で作業が行われているところを実際に見学しました。九電工では概要説明後、卒業生から現場の厳しさや社会人になる心構えなどを話していただきました。どちらの会社も県内に留まらず、日本全国はもちろん、世界にも視野を向けて活躍されている企業でした。生徒にとっては進路を考えるととても貴重な時間になりました。

第13回高校写真展

12月17日(日)に第13回高校写真展に参加してきました。当日は入賞作品を見て勉強したり、選者の先生のご意見を伺ったりしました。白石楓葵(2-2)は優良賞を受賞することができました。部員一同、今回の会で得たものを今後の撮影に活かしていきます。最後に、撮影のご用命等あれば、お気軽にお声かけください。



大会結果

◇平成29年度 長崎県高等学校総合文化祭 第13回高校写真展
優良賞 白石 楓葵
予選通過 海辺陽香・白石楓葵・吉田理矩

◇第39回九州高校放送コンテスト長崎県大会 テレビ部門
優良賞 放送部

2月の行事予定

3日(土),4日(日)	②対外実力模試	8日(木)	③登校日(ヤング講座)	27日(火)	③登校日(卒業式練習)
7日(水)	校内マラソン大会	15日(木)	③登校日(年金セミナー)	28日(水)	卒業式予行
8日(木)	校内マラソン大会予備日	15日(木)~20日(火)	①②学年末考査		同窓会入会式
	①②学年末考査時間割発表	22日(木)	主権者教育		
	第2回生徒総会		③登校日(租税教室)		

地域探求学習発表会

今後、社会の変化に応じ、課題発見力や、学び続ける強い意志、協働により解決の道筋を切り拓く力が求められます。このような力の育成のため、進路希望別に班分をし、探究学習を実施しました。(以後生徒感想より)「多くの価値観に触れた」「自分達で調べる・皆で考える・自分の考えを伝える・人の意見を聞いてまとめることの大切さを実感した」「改善していくことでより良いものが出来上がっていく達成感を得た」「挑戦することの楽しさが分った」「進学・就職をしても、ふるさと上五島を元気にするためにできることを考え続けていきたい」・・・有意義な学習でした。役場職員の皆様、協力していただいた地域の皆様ありがとうございました。



センター試験

1月13・14日の二日間、本校を会場に大学入試センター試験が実施されました。直前の寒波と雪に見舞われ、登校できない生徒も出るのではという危惧もありましたが、無事全員が体調を崩すことなく受験することができました。翌日の自己採点を経て、生徒たちはそれぞれの受験校に向けて再度勉強に励むこととなります。受験では必ずしも全員が思い通りの結果が得られるわけではありません。でも、自分の人生の目標を叶えるために何をすべきなのか、しっかりと向かい合い立ち向かうことが大切になります。それはある意味合否以上に大切なことなのです。それをこの厳しい戦いで感じ自分の進路実現に向けて頑張してほしいと思います。